

白銅箸四具

〔觀世音寺資財帳〕觀世音寺 嘉保口年寶藏實錄日記

第三韓櫃略中 銅箸貳具 前帳云全、寛治六年帳云同前、

第六韓櫃略中 鐵箸壹隻 前帳云片平料、鍛冶箸 寛治六年帳云、今檢同前、

〔山槐記〕治承三年正月六日乙丑、今日東宮德安 御五十日也、略中

此間供市餅云々、銀盤一枚盛之、柳箸七、摩粉木等置樣器、其體如箸

〔拾遺和歌集十六〕除目のころ、子日にあたりて侍りけるに、按察更衣のつぼねより、松をはしにて

たべものをいだして侍りけるに、

もとすけ

ひく人もなくてやみぬるみよし野の松はねのひをよそにこそきけ

〔鹿島志下〕七不思議略中 七には、松の箸、更に脂いせず、正月七日の間は太箸といひて、松の箸を

つくりて、家毎に朝夕用ふる也、

〔醍醐雜事記二〕大僧供頭支度事

箸五十前檜

〔好色二代男三〕樂助が靱猿

さる人庭櫻咲きて見に罷りしに、略中 其竹椽の端に、丹波筑籬に入れて、杉箸を洗ふて干して置

かせしは、此心入のうるさし、略下

〔寛天見聞記〕箸のふときは蕎麥屋の様なりと譬しも、いつしか細き杉箸を用ひ、天麩羅蕎麥に霰

そば、皆近來の仕出しにて、略下

〔匡房卿大嘗會記〕天仁元年十一月廿一日、亥一刻供神膳、其次第自柏殿東、其行列次第、略中 一人執

御箸篋、納竹箸六具、歟可尋、屈竹以絲結之、入本柏四束、